

## ～重症熱性血小板減少症候群(SFTS)患者の発生について～

- 令和3年(2021年)3月25日、県内で、今年初めての重症熱性血小板減少症候群(Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome:以下「SFTS」という。)の患者が確認されました。(全国では、今年7件(3月25日現在)が報告されています。)これまでの県内の発生は累計で22件です。(平成25年から今回の1件を含む。)
- SFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染するといわれ、感染予防策としてはマダニに咬まれないようにすることが重要です。
- 気温も高くなり、これから12月頃までは、マダニの活動時期となります。森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボンを着用するなどマダニに咬まれないよう十分な対策を講じて下さい。袖やズボンの裾に隙間ができないよう、できるだけ肌の露出を少なくするよう注意してください。
- 屋外活動後は、入浴などを行い、マダニに刺されていないか確認してください。

## 1 患者の概要

- (1) 患者:女性(83歳)、天草市在住
- (2) 職業:無職
- (3) 症状:発熱、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少等
- (4) その他:マダニの明らかな刺し口なし
- (5) 経過: 3月18日:発熱、食欲不振のため、天草保健所管内の医療機関を受診し、入院。  
3月23日:医療機関でSFTSを疑い、天草保健所を通じて、熊本県保健環境科学研究所に検査を依頼。  
3月25日:熊本県保健環境科学研究所でSFTSであることを確認。

## 参考

### ■重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

- ・SFTSは、平成23年に初めて特定された新しいウイルス（SFTSウイルス）に感染することによって引き起こされる病気で、4類感染症に分類されています。

主な症状：発熱、全身倦怠感、消化器症状、リンパ節腫脹 致死率6～30%

治療方法：対症療法、有効なワクチンなし

感染経路：マダニによる咬傷（※感染した動物に咬まれたり、血液等に直接接触することにより感染する可能性もある。）

潜伏期間：5日～2週間程度

※マダニは、衣類や寝具に発生するヒョウダニなどの家庭内に生息するダニと異なり、主に森林や草地に生息しており、市郊外、市街地でも生息している。

### ■ダニ媒介性疾患の予防対策

- ・今回確認されたSFTSはダニ媒介性疾患の1つです。
- ・ダニ媒介性疾患の感染予防対策としては、ダニに咬まれないようにすることが重要であり、以下の点に注意して下さい。
  - ① 森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴などを着用し、肌の露出を少なくすること。
  - ② 屋外活動後はマダニに咬まれていないか確認すること。
  - ③ 吸血中のマダニに気がついた際は、速やかに医療機関で処置すること。
  - ④ マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、医療機関を受診すること。

### ■熊本県でのダニ媒介性疾患の年間発生件数

R3(2021).3.25 現在

年	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
日本 紅斑熱	8	20	22	20	18	11	19	14	7	6	17
つつが虫 病	11	8	7	9	9	11	20	10	10	11	14
SFTS ※				4	1	1	1	1	5	2	6

※SFTSは、平成25年3月4日から届出対象疾病となった。

#### ○日本紅斑熱

マダニに咬まれることで感染し、2～8日の潜伏期間を経て発症し、発熱、発疹、刺し口が主要三徴候であり、倦怠感、頭痛を伴う。発疹は体幹部より四肢末端部に比較的強く出現する。治療法は、抗菌薬の投与。

#### ○つつが虫病

ダニの仲間であるツツガムシに咬まれることで感染し、5～14日の潜伏期間を経て、典型的な症例では、39℃以上の高熱を伴って発症し、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられる。また、患者の多くが倦怠感、頭痛を伴う。治療法は、抗菌薬の投与。

（連絡先） 健康危機管理課感染症対策班 担当：福田、古庄、田村  
096-333-2240（直通）（内線7082）